

①実演の場に関するご意見一覧（12月22日期限）

(1/4)

資料2

No.		①内容				②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情報)	
		各種展示物等の設置スペース	実演の場	場所				ワークショップスペース	午前	午後			夜間
				屋内	屋外								
1		—	—	●		・地域の10名以内のグループがコワーキングスペースとして使う。	—	ほぼ毎日	●	●		空いている机を数名程度のグループで会議をしたり作業をしたり活用すればよい。会議室を借りるのはたいそうなので、気軽に使える場所として使用できれば。オープンなスペース。	(図書施設ワークショップご意見 No.1)
2	ドローンスクール ドローンの免許を取得や体験、練習ができる場所として活用。	—	ドローン体験 ドローン資格技能講習	●		小さいドローンをワークショップルームで飛ばす(他の委員)	南側労働施設 1階待合	月数回程度	●	●		2022年に国家資格として免許制度となるドローン(200g以上)。ICT技術の活用として、建設業においても、ドローンによる測量や橋梁の点検作業などに活用されている。また、実験的に資材の運搬など活用に広がりを見せている。子供たちも含めて身近にドローンを体験できるイベントや、日ごろのドローン飛行の練習場として活用する。(人口密集地だと基本屋内でしか飛ばせず、練習スペースが限られており、例えば近隣で言うと天下茶屋のフットサル場の場合1H/3000円くらいとなっている)	(事前提出) ドローンは最高に良いが、広いスペースが必要になるため、広場との棲み分けも大事かと思う。(他の委員)
3	地域の子どもたちを含め、大人も子どもも楽しく学べる「建設博物館」	簡易足場の設置、建設機械の展示、VRスペース、ウォータープラザにあるような対戦型のゲームコーナー「クイズ建設博士」等	対象指定なし：とび体験をゲーム感覚で味わえるコーナー(参考画像①)、コンクリ打ち、コンクリならし、建設機械の試乗 大人向け：建設業シミュレーションコーナー(指揮命令経験、労災発生時の行動等)	●	●	キッズニアにあるようなDIYコーナー、左官(壁塗り体験)	北側広場施設内3フロア(例：3部屋)	週数回程度	●	●		・10:00~17:00 ・入場料：小学生無料、大人500円(ただし、非課税世帯や外国人労働者は無料) ・楽しみながら建設業に触れることで、建設業に興味をもたせる。次世代の人材確保・育成等の振興支援を目的とする。外国人も対象者に入れる。 ・展示スペース・実演の場では体を動かしてモノを造り上げる建設業の魅力を知ってもらい、ワークショップスペースでは職人をスタッフとして招き雇用・交流の場とする。東京の科学技術館4階F室の「建設館」要素も入れる。 ・賃料は一般財団法人建設業振興基金などから寄付金を募る。あるいはクラウドファンディング。	(事前提出)
4	地域の子どもたちを含め、大人も子どもも楽しく建設業に触れ合えるブース	簡易足場の設置、対戦型のゲームコーナー「クイズ建設博士」、建設業や地域の歴史をパネルにして展示	対象指定なし：とび体験をゲーム感覚で味わえるコーナー(参考画像)、コンクリ打ち、コンクリならし、建設機械の試乗 等 大人向け：建設業シミュレーションコーナー(指揮命令経験、労災発生時の行動等)	●		DIY講座、夏休み学習にもつながる体験型講習の実施	北側施設内 1室	月数回程度	●	●		・北側は福祉関係の施設を建設するという話も出ていた。施設内に10畳ほどのスペースを借り、建設業や地域の知識で戦う対戦型のゲームコーナー、ゲーム感覚で遊べる簡易足場、建設業や地域の歴史を簡単に資料としてまとめて展示、DIYなどモノづくり体験コーナーのいずれかを設置し、子どもをはじめとして建設業を身近に感じてもらい、魅力を知ってもらいブースにする。	(事前提出) (他の委員)重機扱うとなるとかなり広いスペースや屋根がある

①実演の場に関するご意見一覧（12月22日期限）

（2 / 4）

No.		①内容				②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情報)	
		各種展示物等の設置スペース	実演の場	場所				ワークショップスペース	午前	午後			夜間
				屋内	屋外								
5	「ハラハラドキドキ！足場体験」子どもも大人も楽しみながら学べるイベント	簡易足場の設置	・3階相当の足場から見た眺めをVRで体験、床に実際に建設現場で使用される足場板を設置する（ただし、安全面を配慮して床に直置きで固定）。参加者にはこれを伝えて、時間内に丁寧に早く、用意したミッションをこなしてもらう。クリアできた人には修了証（おもちゃ）を贈呈する。	●		体験を通して感じたことをタブレットに書いたものをスクリーンに反映する。あるいはポストイットほどの大きさの紙に書いて壁に貼り付ける。手書きにするなら、小学一年生でも使えるような高さの机一台を配置（サッカー台ほどの高さ）。	63平方m～150平方m（一般的な教室の広さが63平方m）	月数回程度	●	●		・使用方法は「実演の場」「ワークショップスペース（作業室）」と同じ。ミッションでは高い所で物を作ったり（例：マグネットお絵かきボードと磁石を付けたこてで左官ごっこ）、鉄筋等固定したり、所定の位置から所定の位置まで物を運んだり、する。 ・小中高生無料、大人500円。	(事前提出)
6	「仕事ってなに？ Ver.建設業」子どもも大人も楽しみながら学べるイベント	・パネル展示（どうして仕事をするの？、建設業の歴史、西成区と建設、建設と大阪、身近な建設、危険作業と注意点、建設関係の施設、建設の未来 等）	・資格のいる建設用重機に試乗、写真撮影	●		—	63平方m～150平方m（一般的な教室の広さが63平方m）、西成労働福祉センター1階駐車場	月数回程度	●	●		・対象：地域の子どもをはじめとする小中高生 ・キッズニアでは伝えきれない建設の面白さ・危険回避の方法・働くことの大切さを伝えるイベント。クイズを書いた紙を渡し、答えとなる仕事をする意味や建設に関する展示パネルを施設の色々な箇所に設置。クイズを解いてもらう。 ・参加者には最後に試乗体験と記念の写真を贈呈。	(事前提出)
7	—	—	こども（小中学生）を対象としたVR、AI、ドローンなどの機器や技術に触れて遊んで学べる場づくり	●		—	—	週数回程度		●		週末や休日にスクール形式で実施（毎回10～15人） 参考：太田市 キッズクリエイティブチャレンジ	(当日提出)
8	—	—	アート・芸術関連。 例えば、合唱や歌、バンド等の練習ができるスペースがほしい	●		例えば、踊り、演劇の練習、ダンスの練習、落語が出来る場所（教室）	—	—	—	—	—	—	(当日提出) (他の委員) 実際に活動している人の意見を反映する形をとってほしい。意見を反映されると参加意識につながる。

①実演の場に関するご意見一覧（12月22日期限）

（3/4）

No.	①内容						②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主 体等の補足情 況) (当日提出)	
	各種展示物等 の設置スペース	実演の場	場所		ワークショップス ペース				午前	午後	夜間			
			屋内	屋外										
9	—	リアル展示。大型スクリーンによるあいりんの歴史、西成の文化等の映像	ドローン研修	●	●	—	—	—	—	—	—	—	申し込みによる利用	
10	—	宮大工。木組みの仕方を学ぶ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	映像を含めて、実際に組めなくても、こういうように作られるということが分かればよい	—
11	—	—	自然災害の被害にあった人の救助体験を子どもたちにさせる	—	—	—	—	—	—	—	—	—	この街から日本中の災害復旧にずっと行っていることを示す（他の委員）	—
12	—	建設現場にて業者や異なる人がどう切り分けをされているのか分かる場所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	建築というものを昔の木造建築から含めて扱う。変遷を学ぶ。	—
13	—	—	仕事の見える化、見たり体験しながら、仕事に繋がっていく。	—	—	労働施設と繋がった形で、次に進むためのきっかけづくり、あるいは技能を高めしていく機能	—	—	—	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	何をやるのかによって、広さが必要なのか、部屋が必要なのか。或いはバーチャル空間でできるのか。いろいろ考え方があると思う。	—
15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	建団連が行っている技フェスタ	—
16	—	週替わりで、一つの展示スペースで毎週DIY講座であるとか、ペンキ塗りの体験ができるとよい。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17	—	—	人形劇、英語、ろくろ、絵画など、〇〇教室と言われるものを主体的に行う	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18	—	—	IT・ICT系の仕事に触れ、ITデバイスについて学ぶ プログラミング、段ボールロボット、AR、VRの体験の場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	太田市のキッズクリエイティブチャレンジ	西成の子どもたちは他の子どもたちより早くiPhoneやタブレットを与えられる傾向にあると思う

①実演の場に関するご意見一覧（12月22日期限）

（4 / 4）

No.		①内容				②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情)	
		各種展示物等の設置スペース	実演の場	場所				ワークショップスペース	午前	午後			夜間
				屋内	屋外								
19	—	—	ICT技術を実体験できるスペース。	—	—	—	—	—	—	アップルストアのような、タブレットやスマホを説明して学べるようなスペース	—		
20	—	—	子どもの食育	—	—	子ども向け料理教室	—	—	—	台所がなくてもレンジで料理 コンビニで売っているものであればレンジで作れる	—		

②地域の歴史等の伝承（アーカイブ）に関するご意見一覧（12月22日期限）

(1/2)

No.	①内容	②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情報)
				午前	午後	夜間		
1	釜ヶ崎の歴史や内容を知りたい人達が訪ねて来た時に見ていただける量と質を充実させることで、外からの訪問客も増えるのではないか。	—	ほぼ毎日	●	●		—	・西成アーカイブを充実させる ・釜ヶ崎に関する文書、写真など提供を呼び掛け (図書施設ワークショップご意見 No.2)
2	新聞雑誌がたくさんほしい地域の歴史がわかる資料	—	—	—	—	—	—	新聞雑誌は1年分ぐらいは残してほしい。 西成アーカイブは火・水曜日しか開いていない。 (図書施設ワークショップご意見 No.6)
3	西成アーカイブの移転	—	ほぼ毎日	●	●	●	新今宮周辺の資料が包括的に集まっており、区民だけではなく、区外からの利用も可能。	(図書施設ワークショップご意見 No.19)
4	西成アーカイブの移転	—	ほぼ毎日	●	●	●	現在の西成情報アーカイブをバージョンアップした使い方ができるように、ここに移転する。 面積も現在のボリュームを参考に設定する	(図書施設ワークショップご意見 No.25)
5	旧あいりん総合センターの記憶遺産的体験施設	—	ほぼ毎日	●	●	●	労働者の街としての歴史を忘れることなく継承するためにバーチャルでかつての様子を立体的に体感できるルーム。ミュージアム。	ガイドや清掃で元日雇い労働者（高齢者）の雇用やボランティアの場とする。 映像は西成労働福祉センターや地元映画監督などが蓄積しているはず。 (図書施設ワークショップご意見 No.27)
6	多様な文化を知る・学ぶ施設	—	—	—	—	—	地域で一緒に住んでいる外国人と文化を一緒に学ぶことができる場。	(図書施設ワークショップご意見 No.28)
7	歴史資料館・博物館スペース	—	—	—	—	—	釜ヶ崎の歴史を学べる写真や書物の展示・閲覧ができるコーナー、映像資料の視聴スペース など	(図書施設ワークショップご意見 No.32)
8	バーチャル空間、プロジェクションマッピングでの立体物などがどの場でも使えるような設備・施設	—	—	—	—	—	—	—
9	あいりんというところは、どんな人たちが住んでどんなものを、日本の中で作ってきたのかを映像化	—	—	—	—	—	—	—
10	西成というところへの文化的な歴史的な存在感を入れ込む	—	—	—	—	—	—	—

②地域の歴史等の伝承（アーカイブ）に関するご意見一覧（12月22日期限）

（2/2）

No.	①内容	②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情報)
				午前	午後	夜間		
11	山王町が芸人の街ということ踏まえ、この町からビッグになっていった芸人やアーティストを例に挙げる	—	—	—	—	—	—	—
12	未来に向かって発信するような機能。国際化	—	—	—	—	—	旅行者が楽しんでもらえる施設 子どもたちが外国人と接触することで勉強になる	—
13	あいりん総合センターのミニチュアを作って飾る	—	—	—	—	—	—	労働福祉センターにはなく、職安か医療センターかで見 たことがある。（他の委員）